

No.	カテゴリー	発言の内容	意見への対応
1	「文化力の拠点」への導入機能・規模	地域の30代～40代の女性などの <u>地域住民が学生などと一緒に拠点整備に取り組んでいく</u> ことも一つの考えである。	<u>住民参加による景観づくりや花と緑あふれた地域づくり、留学生など多文化の若者と地域住民との交流の場の創出に努めていく。</u>
2		様々なプロジェクトで全国の大学の留学生が静岡に集まり、 <u>東静岡で学び・交流</u> が出来ると面白い。	大学コンソーシアムの活動をはじめ、様々なプロジェクトや魅力的な学びの展開などにより、 <u>若者が集まり様々な大学の学生間の交流</u> につながるよう努めていく。
3		「文化力の拠点」において、 <u>最先端のことが学べたり、魅力的な研究者</u> がいれば、訪れてみたい場となる。	「文化力の拠点」には、日本平周辺に集積する <u>学術、文化・芸術関係機関の多彩な研究者が集い、交流し、学を究める“ふじのくに”の研究拠点機能</u> の導入を検討する。
4		10年、20年続く <u>テーマ、キーワードを施設の中に明確に落とし込み、地域で育てていく</u> ことが重要。	静岡が誇る「食・茶・花」をメインテーマとして機能の充実を図っていくとともに、 <u>機能間の組み合わせや、周辺施設との繋がりなどにより、特徴的な機能の導入に努めていく。</u>
5		大規模な施設ありきではなく、そこで、 <u>人々がどのような活動をするか考える</u> ことが重要。	「文化力の拠点」でのユーザーの活動の拡大に繋がるよう、 <u>施設内の機能の充実や、周辺施設との連携</u> を図っていく。
6		<u>図書室は、勉強したり、研究したり、うろうろしたり、食事</u> も出来るような、 <u>マルチな感じのスペースとすべき</u> である。	図書室は、壁での仕切りを減らすなどして、 <u>単一機能の閉鎖的な空間とならず、開放性や連続性のあるマルチな空間となるよう留意</u> していく。
7		「食」や若者、女性等をターゲットとした機能が混ざり合うような <u>施設構成</u> を考えるべき。	<u>若者や女性等のユーザーが、食を通じて、交流を深めたり、憩うことができたりするような施設構成</u> のパターンを提示し、御議論いただく。
8		「図書室」、「講義室」と考えると窮屈になるが、 <u>庭と一緒にあるような「堂」が静岡の風土には合う</u> ので、そうしたものを考えるべき。	施設構成イメージ（資料3）及び建物イメージ案（資料6）で、 <u>1フロア2,000㎡や5,000㎡、「堂」のイメージなどのパターンを内藤委員、寒竹委員から御提案いただき、御議論</u> いただく。
9		1フロア5,000㎡がスタンダードになりつつある。 <u>1フロア2,000㎡では、単一機能で閉鎖的な空間</u> になってしまう。	
10	大学コンソーシアム拠点機能・国際学生寮	<u>留学生が100人以上の規模で居住していることを、いかに地域で活用するか</u> 考えるべき。	留学生と地域住民との交流や、留学生の静岡に対する理解の高まり、「文化力の拠点」での活動の広がり等に繋がるよう、 <u>留学生と地域住民との交流の場の創出</u> に努めていく。
11		様々な大学の留学生が東静岡に住むことは、 <u>地域の活性化に繋がる</u> 。国際学生寮にいる期間は、 <u>住民の力を借りる</u> ことも必要。	
12		国際学生寮は、 <u>特定の大学ではなく色々な大学の留学生が1年間入居</u> することとし、 <u>人数も100人ではなく200人くらい</u> にすべき。	
13	「文化力の拠点」の整備	民間資本にとって魅力のある場所にするには、 <u>機能を一気に整備するものもあるし、経営面から時間をかけて段階的に整備するものもある</u> のではないかと。	<u>導入機能の検討を踏まえ、民間事業者の意見を聞きながら、事業スキームを検討</u> していく。
14	景観・まちづくり	「文化力の拠点」の中に眺望地点をつくるなど、 <u>富士山眺望</u> を考えていただきたい。	「文化力の拠点」からの <u>富士山眺望</u> について、 <u>模型により御確認</u> いただき、御議論いただく。
15		<u>駅前広場の前の空間に景観コア</u> ができるよう、配慮していただきたい。	都市景観検討技術会議において検討していく。
16		<u>線路際の物々しさが景観的に問題であり、ここに配慮しないと文化的な景観は生み出せない</u> 。	